**令和元年度　第１回大阪府立図書館指定管理者評価委員会議事概要**

**日時：令和元年５月2８日（火）午後1時から2時まで**

**場所：中之島図書館別館２階　会議室**

**出席委員：明定委員長、泉委員、鮫島委員、難波委員**

**議題１　図書館指定管理運営業務の評価方法について**

委員長：資料４の２（３）②及び３について、肯定的な回答比率が５ポイント以上増加とあるが、ポイントとは何を指すのか。

事務局：回答比率のパーセンテージを指す。

委員：資料４の１について、年度末実績で修正した内容についてフィードバックはどのようにするのか。

事務局：タイミング的に次年度の計画に反映することは難しいため、原則としては次の年度以降の計画に反映させる。もし大勢に影響するような事柄で当該年度の計画の修正が必要となれば、制度所管課とも相談し対応を考える。また、評価票の評価基準にある目標値設定は、年度末実績を加味して設定するので、次年度の評価基準には反映される。

委員長：議題１図書館指定管理運営業務の評価方法については異議なしということでよろしいか。

委員：異議なし。

**議題２　令和元年度大阪府立中之島図書館及び中央図書館指定管理運営業務の評価票について**

委員：資料６の目標値設定②で80％未満の場合に0.8で割るよう設定した理由は。

事務局：当初提案した数値より実績が大きく下回っている項目であり、現状より高い数値を目指していただきたいことから、過去２年実績平均を下回れば最低評価の１点となるよう逆算して設定した。もともと低い数値ではあるので実績平均の25％くらい増としてほしいと考えている。

委員：提案書の数値は指定管理者が自ら設定した目標値であるため、実績と乖離していても目標値を下げる必要はないのではないか。

委員：問題になるのは３項目、中之島図書館の多目的スペースの稼働率と収入、ガイドツアーの参加者数。ガイドツアーの参加者数は実績が提案書数値の半分、多目的スペースについては提案書数値の十分の一以下で乖離しすぎている。以前の議論でも、乖離しすぎているという話があった。当初の大阪の想定した数値に合わせて提案書を作成した結果、高い数値となっている。

事務局：当初の想定が甘かったこともあり、実績が提案書の数値の1/10以下になってしまったため、これまでの議論から実体を踏まえた目標値設定としている。実体のままでは低すぎるので、より上を目指していただくために実績を0.8で割ることにより、実体よりも高めの目標値設定としている。

委員：提案の数値によるコンペで指定管理者に選定されているため、コンペに負けた事業者がどう思うか気になるところ。実績が提案の数値を大きく下回る項目を、実績ベースで設定した目標値により評価し高評価を得た場合、次回選定時に現事業者が応募し、前期の実施状況が議論に挙がった場合に、誤った印象を与え、好印象の下駄をはかせることになるのではないか。評価基準を下げたうえでの評価であることをちゃんと引き継いでおく必要がある。

事務局：委員の言うことは十分わかる。前管理者の応募時に、評価を反映する仕組みがあるが、今期は対応せず、次期指定管理者からとなっている。できればこのままの数値で評価したい。

委員：選んだ以上はクビにはならないが、１番最初の設定が間違ってプロポーザルにかけた府が悪い。次回募集に向けての課題。

委員長：公募をする際に設定する数値について、次回の公募に向けて整理していただきたい。

委員：前回、中之島図書館の多目的スペースについてレンタルオフィスの活用等提案したが、その後どうなったか。

中之島図書館指定管理者：チラシ・HPの改善等の工夫をした結果、数字は少しずつではあるが上昇傾向にある実感がある。また認知度が上がってきた実感もある。今後も頑張っていきたい。

委員長：議題２令和元年度大阪府立中之島図書館及び中央図書館指定管理運営業務の評価票については異議なしということでよろしいか。

委員：異議なし。